

評価項目	学校関係者委員からの意見等	意見等に対する今後の手立て
1 学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営計画の組織目標3項目について毎年職員に周知検討しているとあるが、各学科の取り組みが適正に評価され、次年度更にレベルアップできるようになっているのか。年度末にでも教職員に対してフィードバックし目標到達したか否かを報告し、目標達成できた、できなかったの理由等を考察し、来年度に繋げていただきたい。 ・毎年このような取り組みを継続出来ていることは素晴らしい。 ・組織目標についてメール配信により全職員に周知し、会議でも確認することで職員への意識付けに繋がっていると思われる。 ・自己評価は4.6点であり、評価項目の中で最も高く、職員の中でしっかり共有されていると感じた。 ・課題にもあるように、学校関係者評価委員会の開催を早め、学校運営に生かされるとよいと思われる。 ・職員による評価は4.6点であり、評価項目中最も高い結果を示しており、組織目標や課題解決に向けた共有が十分なされていることが伺われる。今後も様々な問題や危機に対する管理・運営体制を整え、円滑な運営が図られることに期待したい。 ・学校のビジョンや組織目標がきちんと立てられ、評価に基づく課題抽出、改善策まで作成されている。少ない職員できちんとされている点は高く評価できる。今後も継続した学校経営を望む。 ・職員による評価4.6点であり、8つの評価項目のうち最も高い。学校のビジョンや組織目標等が職員に浸透したのは、機会をつくり様々な方法により周知を図った結果であると思われる。また、それだけでなく、内容についても職員の理解や共感が得られたことが大きな要因であると考え。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織目標及び学校運営計画については、年度初めに職員に周知し、評価は中間評価と年度末に行い、結果を職員会議で周知、共有する。評価結果から導きだされた課題は、次年度の組織目標及び学校運営計画に反映させる。この取り組みを引き続き確実に実行し、常に改善を図りながら学校運営を行っていく。 ・各学科運営計画は、組織目標をもとに立案し、年度末に目標の達成度を評価し、次年度の課題を明確にして共有を図る。 ・学校関係者評価委員会の開催時期については、委員会の意見を早期に学校運営に反映させることができるよう、夏季休暇前には計画、実施できるようにする。
2 学科運営	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工学科における昨年度からの課題である科目の順序性や段階的な積み上げ学習についての対応として、外部講師の意見も取り入れて改善できたことは高く評価できる。外部からの客観的評価も受け入れる姿勢が今後の学習にも繋がっていくと思われる。 ・助産学科、第一看護学科は令和4年度から新カリキュラムが開始となったが、学生からはねらい通りの評価が得られており、良いと思われる。第二看護学科も令和5年度より新カリキュラムが開始となったことから、今後はその内容について評価し、課題の抽出など行っていく必要がある。 ・看護系、歯科系、両学科の合同授業はとても良い取り組みであるので、今後も是非続けてもらいたい。 ・コロナは5類になったが、今後もいろいろな制限の中での実習が続くと考えられるので、目標達成できるような工夫が必要である。 ・看護系学科では、カリキュラム改正により新たな分野、科目が設定され、授業研究の取り組み等により、学びの深化に繋がっていることは評価できる。また、歯科系学科でも外部講師との連携や他学科との合同授業参観の実施など、ポジティブな学科運営ができています。 ・時間割の配布については、早期提示できるよう取り組まれていると思うが、例年、学生から意見が出ている事項であるので、新たな手立てが工夫できるとよい。 ・それぞれの学科において、非常に細かな学科運営計画を立て、実施、評価がなされており、教員のご苦勞が伺える。学科を越えた連携も見られ、他の学校にない学びの提供を継続して欲しい。 ・複数の学科でカリキュラムの改編がなされたが、学科の実情に応じて様々な工夫をし、丁寧に運用することによって、スムーズに移行できていることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス等の感染症の再拡大や災害により、今後も学習が制限されることは想定されるため、どのような状況でも学習目標が達成できるよう、代案を準備して学生の学習環境を整えていく。 ・時間割の配布は、複数学科で1か月半から2か月前に行うよう改善できている。配布時期を早めた結果その後の変更が増えているが、学生は早期に予定を把握し、スケジュールの調整・管理が行えている。1か月前には配布できるようにするため、作成にあたっては、複数学科を担当する外部講師には1学科が取りまとめ依頼する。教員分は数か月先まで概ねの予定を入れておく等工夫し、効率化を図っていく。

評価項目	学校関係者委員からの意見等	意見等に対する今後の手立て
3 入学・卒業対策	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今の状況において、学生確保が困難な状況はよく理解できる。第一看護学科の入学者数の減少が大きい、他大学との競争に勝つためには更に上をいく対策が必要と思われる。目標値を前年度の入学者数としているが、これでは、目標値も毎年減少してしまう。現行の定員数を確保するとすべきでないか。結果が欲しい。 ・入学者数を確保することは難しい課題だと思いが、いろいろなメディアを活用して広報に力を入れてほしい。 ・対象を社会人に広げるなど、幅広い確保を検討されたい。 ・コロナ禍で学校訪問やオープンキャンパスは中止となっていたが、説明会など状況に合わせ、できる範囲で取り組まれていると思う。今年度はオープンキャンパスが実施されたので、効果を期待したい。 ・国家試験合格率は、ほぼすべての学科で100%である。これは当たり前にはできる結果ではない。今後も合格率100%を目指して取り組みの継続をお願いしたい。 ・入学生の確保、卒業後の支援はどの学校においても課題であり、特にコロナ禍においては、できることも限られた中、情報誌への掲載など、新たな取り組みをされたことは評価できる。今後、社会活動は再開されるが、学生確保に向けて、ホームページの改修をはじめ、ターゲットの幅を広げる有効な広報活動を引き続き工夫されたい。 ・少子化で高校卒業生が減少する中、学生確保に努力されている。技工学科の減少が著しいが、若い世代に職業を知っていただくことも必要である。 ・コロナ禍であっても、学校の認知度を上げるための新たな手法を工夫したことが功を奏し、全般に志願者数が増加したと思われる。 ・情報誌への学校案内の掲載について、アクセス数を確認するなど、後にその効果を検証するような取り組みも必要である。 ・国家試験合格率は高い水準を維持しており、卒業生全員が就職を果たしていることは高く評価できる。 ・入学生アンケートの結果によれば、学校選択には学校案内やホームページを活用し、それが役に立ったと回答した学生が多いことから、引き続き、それらを充実させることが必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生確保については、オープンキャンパスや高校ガイダンス等でアピールしているものの、現代の大学志向もあり、確保が難しい状況である。確保の目標値を定員数にすることが望ましいが、ここ数年の状況をみると現実には到達は難しい。令和6年度の入学生数の目標値は、定員数を意識しつつ、過去5年間の各学科の実績をふまえ、助産学科16名以上、第一看護学科40名(定員数)、第二看護学科40名(定員数)、歯科技工学科16名以上、衛生学科24名以上とした。今後も、定員数確保を目標にしつつ、受験者の動向をみて目標値の設定を行う。 ・募集活動については、特別入学試験の日程を早め、早い段階で当校への入学を決定できるようにしたり、ハローワークに学校案内を置く等している。今後は、今まで当校に受験実績のない高校にも募集に出向く、対象を社会人に広げる等する必要はある。 ・受験生の8割は、学校案内やホームページから情報収集をしているため、これらをより魅力あるものにした、SNSの活用を検討する等、今の受験生の生活背景に合わせた広報活動が必要である。そのためには、財源確保も必要であるため、具体的な広報活動計画を立案し予算要求していく。 ・人材確保対策部会では、今年度、県の事業であるFC岐阜の試合で流される映像広告による学校PRを計画している。このような広報事業があれば積極的に活用していく。 ・各学科の対策として、第二看護学科に社会人枠を設け、准看護学校だけでなく准看護師資格を持つ社会人をターゲットに医療施設等に募集をかけることも検討していく。また、歯科衛生学科では、学校訪問先を拡大し、積極的に訪問を行い確保に努める。その他にも、地域での歯科衛生活動(講演など)に出向き、職業紹介を通して学校PRを行う。
4 学生生活への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・女子学生が多いこともあり、就学上の精神的な支えは必要と思われる。カウンセリングはプライバシーが尊重され、気軽に受けられることが大事なので、担任を介さずできるとよい。 ・問題や課題を抱える学生に対する相談にあたっては、SNSの活用等、対面以外の方法があってもよいと思われる。 ・現状説明では、様々な背景の学生がおり、学生に合わせた丁寧に対応されていることがわかった。 ・こころの相談室の利用者が少ないことは悪いことではない。家族や友人、教員に相談することで解決できるのであればそれも良いことである。 ・カウンセラーへの取り次ぎ方を変更した効果については、また教えていただきたい。 ・コロナ禍で計画どおりの実習や学習ができない状況があり、その葛藤もあると思うので、今後もサポートは重要だと思われる。 ・こころの相談室の利用方法の見直しにより、学生が気兼ねなく利用できるようになることを期待したい。また、様々な課題や悩み事を抱える学生が増加しているという点では、心身の不調と直結しやすい睡眠や食事などの基本的な生活実態について把握されることで、不調の早期発見に結び付くと思われる。 ・様々な取り組みを実施されている。一人でも多くの卒業生を輩出していただけるよう、特に心の問題には注意して、学生生活が楽しく過ごせるようご配慮いただきたい。 ・一般的には、関係者間でよく連携の図られ、学生支援がなされていると感じる。ただし、職員の評価が上がった一方で、学生の評価はわずかながら下がったことについては、その要因を分析しておく必要がある。 ・昨年度も指摘のあった、学生が担任を介さずカウンセリングを受けられるしくみの導入については、前向きに検討された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こころの相談室では専門家が対応しており、今年度から利用にあたっては、担任を介さず申し込めるようにした。利用方法等をよりわかりやすくするよう(ガイダンスでの説明以外にも、校内にお知らせの掲示をする等)工夫する。 ・学生への支援として、定期面談以外にも学生の希望時に担任が面談を行っており、学生が悩みや困りごとを相談できる環境は整えている。 ・面談は、丁寧な対応を心掛け、特に支援が必要な学生については、教員間で連携を密にして対応する。また、学生支援の方法について、科内で学習会を行ったり、個々で研修を受講したりしている。教員が学生の状況に応じた適切な支援ができるよう、引き続き自己研鑽に取り組む。 ・職員の評価より学生の評価がやや低い結果となった。評価が低かった項目は「進路相談への対応」「経済的・精神的側面からの学業継続支援体制について」「身体的側面へのフォロー」である。教員が対応できていると思っけていても、学生は十分でないと感じているということであるため、例えば、生活実態調査に睡眠や食事に関する項目を追加する等、学生が求める具体的な支援の内容やあり方を把握する必要がある。また、求める支援について教職員全体で共有し、内容ごとに対応方法を検討する必要がある。

評価項目	学校関係者委員からの意見等	意見等に対する今後の手立て
5 教職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は熱心に教育に取り組まれていると感じている。その結果として、国家試験合格率は100%に近く、毎年継続されている。「教えることは最良の学習法である」の言葉通り、指導能力は学生への教育によって向上するものである。頑張っ てほしい。 ・国家試験の合格率が高く、教育内容はとても良いものだと思う。 ・新任職員の支援について、教育計画がしっかり示されており、安心して取り組めるのではないかと感じた。 ・新任教員が不安なく順調に滑り出せるよう、年度当初の比較的早い時期に学習会が開催される等、配慮がなされている。 ・教職員が積極的に研修に参加していることも知ることができた。キャリアアップのため、今後も継続してほしい。 ・授業参観や研究授業への取り組みが、当たり前を実施される環境が定着してきたことは評価できる。加えて、歯科系2学科では、外部講師との共同研究に取り組み、学会誌等への掲載という形で成果を公表されるなど、教員の資質向上にも繋がっており、高く評価できる。これらの実績を学生たちにも共有し、学生の知的好奇心を刺激できるとよい。 ・自己評価は3.6点となっているが、学生指導等で忙しい中でも、それぞれの教員が自己研鑽に励んでいる。負担が増えない形でのレベルアップが必要である。 ・新カリキュラムに対応した授業研究が計画的に実施されていてよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護系学科では、研究には取り組めていないが、新カリキュラムの運用にあたり、授業参観を積極的に行い、授業研究につないでいる。他校や他学科の教員の参観後の評価により、授業の良い点や改善点が確認できるため、今後も継続して行い、学生にとってより効果的な授業を提供できるようにする。また、授業研究を積むことで、看護研究につなぐ準備としていく。 ・実施した研究については、研究結果や発表の成果を学生にも説明し、学生が研究を身近なものにとらえ、興味関心が持てるようにする。 ・教員は、計画的に研修に参加し、教育に必要な最新知識や技術を学んでいる。研修での学びは研修報告として学科全員で共有し、教員のレベルアップを図っている。実務研修についても学科ごとに計画し実施していく。
6 管理運営・財政	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医師会でも災害対策や防火訓練は毎年実施し、防災対策などの研修会も開催している。外部の者が参加できる研修もあるので、是非利用していただきたい。BCP対策(事業継続計画)のマニュアル作成も必須である。歯科医師会で作成したものを参考にされるとよい。近年はwebでのコンプライアンス研修なども多くある。、学校もzoomのアカウント取得する等して、webを有効利用されるとよい。 ・学生の意見や要望が反映されており、良いと思われる。 ・大変だと思うが、学生・職員の安全のために避難訓練や防災備品の整備を進めていただきたい。 ・防災備品等の整備は、できることから順次実施されている。今後、更新も含め引き続き取り組まれない。 ・学生の意見要望も取り入れられている。また危機管理に対しては、それぞれが状況に合わせて行動できる事が必要である。 ・備品整備等について、学生の意見や要望にも丁寧な対応がなされていることが窺われます。 ・コロナ禍で活動制限がありましたが、シェイクアウト訓練や消防訓練を実施されていることは評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練については毎年計画的に実施し、学生全員が避難経路の確認を行っている。また、看護学科では、隣接する病院の災害訓練に学生がボランティアとして患者役で参加し、災害時の臨床での対応について学習する機会となっている。 ・避難訓練のみでなく、災害対策や防災について、学ぶ機会を検討する。(例えば、避難訓練と同日に災害関連の学習を行う、研修会を開催する等)災害対策や防災について学ぶことで、訓練の時だけでなく、各自が日常的に防災、減災を意識し、自分で対策や備えができるよう意識づけたい。
7 施設設備	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医師会では歯科関連の多くの要望を毎年県庁に提出しており、衛生専門学校との備品整備についても要望している。必要な物品、備品があれば相談も可能である。 ・歴史のある校舎ではあるが、限られた予算の中で整備等工夫されている。 ・新入生による学校生活を語る会などで出た意見についても、できる範囲その対応がされていると感じた。 ・図書室にシステムが導入されることで、今後の利用拡大に期待したい。 ・図書室の整備では、ソフト・ハード面共に順次進められていることは評価できる。今後の利用率アップを期待したい。 ・施設設備が老朽化している。、学生の意見を聞き、快適な学習環境の確保や学生の学びの担保に向けて、計画的に予算化し、教育環境の充実を図られたい。 ・古い建物ではあるが、限られた予算の中で、必要なものを計画的に購入し、施設見学では、使用可能であるものは大事に使われていて感心した。 ・「5か年計画」に基づき、必要な機器の更新はなされている。 ・ICT機器の利用拡大に向けては、多くの課題があるとのことですが、具体的な取り組みはなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数の減少に伴い、学校運営予算の財源となる歳入(授業料収入等)が減少傾向にある。限られた財源の中で、計画的に整備を進めているが、老朽化した設備や備品があり十分ではない。計画的に予算化を図り、学生の健康や安全の保証に関わるものや、使用頻度の高いものを優先的に整備できるように要求し、教育環境の整備を進める。

評価項目	学校関係者委員からの意見等	意見等に対する今後の手立て
8 社会貢献・地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内の様子や行事をSNS等を利用して発信することが必要である。学生にはX(旧Twitter)やInstagramを使って、教職員は学校新聞やニュースレターのような形成でもよいので、外に向かって多く広報し認知度をあげるような情報発信が必要と思われる。 ・看護協会のイベントも活用してほしい。 ・ホームページやYouTubeでの学校紹介は、工夫されていると思います。ホームページは、パソコンからは知りたい情報に辿り着きやすいですが、スマートホンは画面が小さく見づらい部分があると感じた。若い世代はスマートフォンからの情報時収集が多いと思うので、検討いただきたい。 ・コロナ禍では、地域との交流は難しい点多かったと思うので、今後に期待したい。 ・学校PRでは、例年の取り組みに加え、新たに情報誌への掲載を試みるなど、積極的に活動がされており、学生確保につながるとよいと感じた。また、コロナ禍で自粛していたボランティア活動の再開にも期待したい。 ・様々な形での地域活動がされているが、より多くの県民に学校の存在を知っていただくこと、学生の姿を見ていただくことが将来の学生確保に繋がると考える。また、社会を知ることは、卒業後のありように大いに役立つ。学校だけではできない学びをぜひ増やしてほしい。 ・令和4年度はコロナ禍であったが、その中でも、小学校や高校の出前授業や模擬授業に出向くことによって、児童生徒の学びに大いに資するとともに、医療職への興味や関心を高めることに繋がったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで学校の様子を公開し、地域への周知は図っているが、若い世代が情報を得やすいSNS等の活用については今後検討したい。ただ、教職員はSNSの利用方法や、広報物作成に関する専門的スキルが不足しているため、必要なスキルが得られる研修等があれば積極的に参加し、広報活動に活かしたい。 ・地域でのボランティア活動は、コロナ禍での制限があり積極的に推奨していなかったが、今年度の募集については学生に周知し、参加もできている。今後も学習に影響しない範囲で推奨していく。 ・学科によっては、カリキュラム改正を受け、社会貢献・地域活動に関する科目を新たに組み込み、授業で実際に地域に出向いて住民の方に話を伺ったり、ボランティア活動の参加につなぐ等できている。今後も授業を通して社会貢献・地域活動に参加していく。 ・看護系、歯科系ともに、カリキュラム改正後は学校周辺の施設での実習が増えている。実習関連施設の方々を、学校行事の文化祭等に招き、交流を深めることも検討したい。 ・広報活動により地域住民への認知が広まり、様々な地域の団体から講演やボランティア協力の依頼をくるようになった。今後は、依頼があれば積極的に受け、社会貢献・地域活動につないでいく。